

平成29年度 第16回 みやざき森づくりボランティア協議会通常総会終わる



挨拶をする二宮会長



河野緑推専務理事

平成29年度の総会が、6月18日(日)に宮崎市高岡町紙屋の共に学ぶ森の管理棟で開催されました。参加団体は10団体、委任状提出団体7団体、参加者25名の総会となりました。会場担当のMFV会の皆様のご協力により、受付もスムーズにいきました。

総会に先立って、宮崎文化本舗の石田達也さんによる講演会が行われ「映画に見る環境保全そして木育」というユニークな演題で講演されました。(内容は裏面に詳しく掲載します。)

講演終了後、総会となりました。二宮会長挨拶のあと、来賓として公益社団法人 宮崎県緑化推進機構の河野憲二専務理事より挨拶をいただきました。

参加団体の方々の紹介のあと、昨年より議長を会長が兼任して議事を進めていくことのご理解を得て、議事進行となりました。

1号議案から4号議案までの議案すべてにおいて、承認を受け、新たな年度の計画も承認されました。内容は総会資料をご覧ください。その中で、収支予算の次年度繰越を有効に使ってほしいという意見が出され、今後理事会などで検討することを確認しました。

また、宮崎県緑化推進機構より平成28年度の森林づくり団体活動支援事業の報告と平成29年度の計画が発表されました。概ね昨年度と同程度の予算規模であるということでした。



参加者の皆さん



総会后、MFV会のフィールドの現地研修となりました。まず、フィールドの説明を児玉暁子会長がパワーポイントの映像を使ってされました。屑や雑草で荒れた土地を現在の樹種豊かな森になるまでの苦労が偲ばれました。

室内での研修は終わり、外に出てフィールドを散策しながら、現状と今後の計画などを実際の植物の状況を見て周りました。

“どんぐりいろいろ園”は、2005年2月に植樹され、ブナ科18種180本、郷土木34種330本。“風薫る森”は、2006年2月に植樹され、郷土木20種174本。“めぐみの森”は2011年2月に植樹され、郷土木8種42本。さらに2012年2月に植樹され郷土木7種35本が植樹されています。参加者の皆さんは緑の中を熱心に質問されながら視察をされていました。



講演会 映画に見る環境保全、そして木育

講師の石田さんは、大の映画好きとお聞ききしていたので、今回は映画の中の環境教育や自然との関わりを話していただくことにしました。

映画では、「ハリリーの災難」。人間の欲しいものは限りないことを教えてくれる内容です。アフリカのタンザニア、ビクトリア湖のナイル、バーチの白身魚。繁殖により、利益がでるが、一部の人の利益にしかならなかった。市民は貧乏のままである。

「不都合な真実」は10年前に作られた映画であり、ゴアアメリカ副大統領のころの映画。10年前は温暖化が盛んに言われていたのが現在はあまり言われなくなった。ノルウェジャンフォレストキャット東ブレッガーの氷河の後退、砂漠化、異常気象、昆虫の生息域の変化、珊瑚の白化、森林生態系の変化、ブナ林の後退、農林水産業への変化とさまざまな環境の変化に対策をしなければならないという立場に立った映画だった。当時のブッシュ政権は温暖化は仮説であり、事実は確認できないという立場だったが、それに異を唱える作品。現在のトランプ政権の潮流にもなっている。

これを踏まえて自ら環境問題に取り組む過程を話された。それは、綾の鉄塔問題から始まった。その事務局長を引き受けたのだ。そこから綾の照葉樹林回廊構想などにも発展していった。

環境問題はいろいろなものが含まれている。そのためにはどういうことをしなければならないのか。

2005年には綾の照葉樹林プロジェクトが始まった。2000ヘクタールを保護林にし、森林生態系保護地域を指定。保護と復元を目的にする。人工林から照葉樹林へ移行されたいのだが、うまくいっていない。それは、鹿の害によるものだ。自然の萌芽が理想、だがなかなかうまくいかない。

行政と一般、教育と連携会議を持っているが、行政は2年ほどで異動があるので民間だけでは非常に難しい。地元の人々がほとんどついてこない。昔からある山なので、価値を理解できない面があったのではないかと話してその裾野を広げていっている。

ユネスコエコパークが世界遺産より早くからあったのだが、今まで日本では、5カ所あるが更新をしていなかった。

2012年に綾地域がユネスコエコパークに指定される。なぜ指定されたのか、人間と自然が持続的に発展を目指す。自治公民館活動の50年の実績も一役買った。エコパークの3つの機能は、生態系の保全と持続可能な利活用の調和(自然と人間社会の共生)をテーマとした経済・社会発展と保全機能、学術発展であり相互に強化し先に掲げたテーマを達成するものです。

そのため、100年後も同じような形でやっていけるかが大切。地域の人がいかに興味をもってくれるかが大事。

環境ボランティアとの関わりだけでなく災害ボランティアセンターとも関わりを持つようになったのが、台風14号のときだった。災害を通じて感じたことは、都市部の人の関心が持続的にそして高いようにするには、どうすればいいのかを考えることも大切なことだと思っているという言葉で締めくくられました。



講師の石田達也さん



〒880-0934

宮崎県宮崎市大坪西2丁目16-6-14

みやざき森づくりボランティア協議会 会長・二宮 信

ホームページ: <http://moridukuri.com/>

事務局: 二宮信

電話・FAX: 54-3714 携帯電話090-1362-4692